

## 「令和8年度第1回救急撮影講習会 in 長野～救急疾患を学ぼう～」参加報告

諏訪赤十字病院 宮坂卓也

令和8年4月25日に長野赤十字病院にて開催された救急撮影講習会に参加させていただきました。今回の講習会は「教育講演」「フレッシュズレクチャー」「特別講演」の3テーマで構成され、救急撮影認定技師として基礎を振り返り、今できることを強化し、そして未来を見据える姿勢を再認識する機会となりました。

教育講演では西池代表理事より機構の歴史やスキームが語られました。救急撮影認定技師の在籍を普遍的な価値とすることや、他学会との連携を強化することなどのビジョンが示されました。若手技師が救急を志す動機となりうる活動になりそうです。

フレッシュズレクチャーでは4名の先生方から各種救急疾患について解説されました。脳卒中では発生部位に関する解剖や手術適応、最新の血管内治療が紹介されました。また、NIHSSやASPECTS、CPSSなど院内やプレホスピタルの段階で有用なツールもご教示頂きました。大動脈解離の講演ではULP型解離の危険性や、解離のRCA巻き込みを確認することの重要性など再認識しました。腸閉塞の講演では閉塞点の検索法やCT上の閉塞を示す各種signなど、画像の読み方にも言及して頂きました。

特別講演では国立病院機構災害医療センターの一ノ瀬嘉明先生から「うろえま」（泌尿器科救急）についてご教示頂きました。基本的な項目として水腎やUTIの判断方法が語られ、上級編では腫瘍との判別が困難な感染症例やレアな症例、尿管破格にまで言及され、大変勉強になりました。また、CTでの排泄相撮影の重要性も認識しました。個人的には「消しゴム study」（患者の主観的な疼痛最強点に消しゴムを貼ってCT撮影し、消しゴムを高吸収に写す手法）に感銘を受け、ぜひ実践したいと思いました。

最後になりますが、本講習会を開催して頂いたJERTの皆様、講師の皆様にご心より御礼申し上げます。また、開催1週間前に規模の大きな地震に見舞われたにも関わらず会場設営して頂いた長野赤十字病院関係者の皆様には深く御礼申し上げますと共に心よりお見舞い申し上げます。

令和8年5月吉日

